

編集後記

■「初めて自由継続リズムを見た人、ド・メランとその時代」と題して、沼田英治先生に寄稿いただきました。オジギソウの話、多くの方が講義や講演で触れられてきたのではないかと思います。かく言う私も、原著を読まないままに引用してきた不届き者のひとりです。時代背景も含めて解説していただき、たいへん勉強になりました。ありがとうございます。

■昨秋の沖縄大会からは、シンポジウム内容をまとめた総説、開催報告、参加報告と盛りだくさんです。遠隔参加した身としては、いいなあ、行きたかったなあ…と改めて思った次第です。次回大会では、みなさまとお目にかかれるでしょうか。マスクを外して、のびのびとお話できる日が待ち遠しいです。過日、小学生の子供に、マスク生活はもうたくさんという旨のことを言ったところ、もう慣れて気にならないから、どうでもいいと返されました。前はよかったと現状を不満に思っている限り、マスクが不要になっても普通に返るだけです。一方、今が普通だと思っていれば、マスクが不要になった時には、普通よりもずっといいと思えるはずです。たかが気の持ちようですが、幸せの見つけ方を考えさせられる会話でした。

(吉川)

■久ひぎのオンサイトで開催された沖縄学会からはや半年経とうとしていますが、第6波が直後からはじまり沖縄開催は非常に幸運だったかもしれません。大会中の深田先生の挨拶でお話された「この大会は波の間で開催された奇跡的な大会かもしれない」というお言葉が「フラグ」になってしまったのではないかとすら思えました。

■そんな中、参加記などの執筆を快くお引き受けいただいた先生方、本当にありがとうございました。参加記は現地参加の方だけでなく、Zoom参加の方の参加記も掲載できましたので、よろしければご一読ください。

■最近仙台に出張した際に大きな地震に偶然遭遇しましたが、大変揺れてホテルの部屋の中はひっくり返りました。東北地方の先生方、ご無事でしょうか？エレベーターやガスが止まる中で、現地の方の冷静な対応には驚嘆いたしました。翌日には問題なく朝食が出され、夕食で入った飲食店でも通常営業している印象でした。私は辛うじて帰宅難民になることは避けられましたが、予定していた新幹線は脱線し、空路に変更した空港でも一部壁などがはがれていました。現地のいち早い復興をお祈り申し上げます。

(池上)

■最終のPDF読んでいて幸せな気分になりました。美しいものができたと自信をもってお勧めできます。例によって私なんにもしていません。執筆者、編集委員の皆様頑張っていた。私、この方々に足を向けて寝られない。本日から地球の真ん中に足を向けて寝ることといたします。

■ド・メランの体内時計発見の本邦初の訳出とその解説を時間生物学会誌に投稿いただいたことは光栄なことでした。科学とは素晴らしいものですね。わくわくする。大河の源流を教えてください。”太陽の光がなくてもその動きを知ることができる”という推測、正鵠を射た見解です。科学の基本が冷静な目と情熱的なマインドによる観察にあることを教えてください。また南の学会ならではの”南の生き物シンポジウム”を誌上で再現していただきました。心浮き立つ沖縄での学術大会を思い出します。感染者数がちょうど谷間となっていて多くのヒトが現地参加できた。奇跡でした。今号、他にも総説、教室紹介など読み応えのある作品が満載です

■先日、生理学会で夜、仙台に到着し、ホテルでのんびりと風呂にはいっているときにぐらぐらときました。入浴剤を入れた緑色透明なお湯がバスタブから飛び出しました。避難せねばと考え机の下にもぐりこもうと思ったのですが風呂場には机がない。そこで思いついたのがお湯の中にもぐることでした。しかし深さ40cmでは無理。裸では逃げろ、となったときに恥ずかしいので慌てて服を着てその日はそのカッコウのままほとんど朝まで寝ずにすごしました。さて、翌日の学会なのですが交通機関がほとんど止まったことも有り学会場にはほとんどヒトがおらず主にオンラインで行われました。正午より時間生物学関連のシンポジウムがありました。シンポジスト、座長、全員がオンラインで映像の中です。一方で会場のwifiがつながりにくいので、会場にやっとこさたどり着いた参加者は、映像を見ているだけで議論に参加できなかった。どちらが現実かわからない映画マトリックスのようなバーチャル世界が成立していたようです。一方、その翌日のシンポジウムでは、私を含む発表者全員現地に揃いました。スタッフ以外の聴衆は2人のみでしたが、それでも仲間うちで活発に議論してやっぱり対面は良いねと盛り上がったわけです。私、阪神大震災では震度7、東日本大震災ではなぜか東京出張で、震度5、帰宅難民となりました。そして今回は震度6に遭遇しました。また帰宅が困難になりました。妙な縁があります。憑かれているかもしれません。本年12月、宇都宮に向かう際には、体を清めお祓いを受けてからまいろうかと思えます。

(重吉)

時間生物学 Vol.28, No. 1 (2022) 令和4年5月1日発行

発行：日本時間生物学会 (<http://chronobiology.jp/>)
(事務局) 〒467-8603 名古屋市瑞穂区田辺通3-1
名古屋市立大学大学院薬学研究所
神経薬理学分野内 (担当 佐々木)
TEL/FAX : 052-836-3524
Email : chronobiology.jp@gmail.com
(編集局) 〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東377-2
近畿大学医学部解剖学
重吉康史研究室内
TEL : 072-368-1031
Email : shigey@med.kindai.ac.jp
(印刷所) 名古屋大学消費生活協同組合 印刷・情報サービス部